

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0874400336		
法人名	株式会社大起エンゼルヘルプ		
事業所名	グループホーム なごみ藤代		
所在地	取手市桐木1376 (電話) 0297-70-8753		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年6月26日	評価確定日	平成20年11月21日

【情報提供票より】 (平成20年6月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤	12人, 非常勤 2人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨一部上地2階造り		
	2階建ての1 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100円		

(4) 利用者の概要(平成20年6月9日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	8名	要介護2	2名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.2歳	最低	70歳	最高	103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	有田内科整形リハビリクリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホームに隣接し、利用者やスタッフ間の交流があり、夜間を含み十分な協力体制を築いている。
施設ではなく利用者の家であるとの思いから、「認知症があっても人が生きる当たり前の姿から利用者を遠ざけないこと」の実現に向け、利用者の言葉や行動を否定せず受容し、自由な生活ができるよう支援している。
職員もそれぞれの体験を活かし様々な視点からケアできるよう取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では運営推進会議を通じて地域への広報活動に取り組むことが課題となっていたが、3周年記念祭や食事会などの時に運営推進会議を開催し、出席の委員にホームの役割や運営方針を説明することで協力が得られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で行い、毎月の職員会議や3ヶ月に1度の家族懇談会で外部評価の報告をするとともに改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1度開催し情報交換や意見交換を行うとともに、だされた意見をサービスの質の向上に活かしている。 家族から提案された議題について出席の委員で話し合っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の家族等から3ヶ月毎の家族懇談会、年1回の合同懇談会、運営推進会議などでだされた意見や要望を運営に反映している。 意見箱を設置するほか、苦情や相談窓口案内の掲示等について運営推進会議で検討することを提案する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>餅つきや収穫祭などの案内状を利用者と職員がともに地域の方々へ手渡し、会話をもちょうにしている。 畑の作物のやり取りをしたり、お祭りや公民館の催しに参加している。 地域の一員としてゴミ拾いに積極的に参加するとともに、散歩時に挨拶を励行している。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分のことは自分で 互いに助け合う 社会とのつながりを大切に」と、その人らしく自立してホーム内での生活を助け合い、地域ともつながりをもてるようホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1度のスタッフ会議や日々の申し送り、連絡ノート等で理念を確認し、共有しながら支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	餅つきや収穫祭などの案内状を利用者と職員がともに地域の方々へ手渡し、会話をもつようにしている。 畑の作物のやり取りをしたり、お祭りや公民館での催しに参加している。 地域の一員としてゴミ拾いに積極的に参加するとともに、散歩時に挨拶を励行している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、毎月の職員会議や3ヶ月に1度の家族懇談会で外部評価の報告をするとともに改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し情報交換や意見交換を行うとともに、だされた意見をサービスの質の向上に活かしている。 家族から提案された議題について、出席の委員で話し合っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は運営推進会議での接点しかない。	○	ホーム行事の日程案内をし、参加への呼びかけなどで連携を密にすることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態に変化があった場合や利用者から要望があった場合は、その都度連絡している。 毎月の介護計画、心身の状態、預り金の報告を書面で行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族等から3ヶ月毎の家族懇談会、年1回の合同懇談会、運営推進会議などでだされた意見や要望を運営に反映している。	○	意見箱を設置するほか、苦情や相談窓口案内の掲示等について運営推進会議で検討することを提案する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	従業員満足度調査を行い、チームで「みんなの和」を話し合い、離職者が減るよう改善活動をしている。 また、引継ぎ期間を設け利用者のダメージを最小限に抑える配慮をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員への基礎研修及び入社1年以上の職員には年2回の現任者研修、3年目研修、5年目研修を年度初めに計画し実施している。 新入職員には研修担当職員を決め、3ヶ月間○J T (現場研修) をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡会へ参加し研修している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前に1次・2次面接を行い、利用者や家族から十分に話を聞いている。 また、利用前に利用者と家族と一緒にホームに来てもらい、リビングで他の利用者と話し合うなど安心・納得できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者がそれぞれの能力を發揮できるよう、できることは見守り、できないことは最低限の支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者の訴えや思いを把握し、ノートに記録するとともに月1回のスタッフ会議で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に1度の家族懇談会で意見交換し、だされた意見を介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1度スタッフ会議を行うとともに、介護計画の見直しをしている。 急な変化が生じた場合は、必要に応じミーティングを行い、支援方法に変更がある場合は全職員に伝え共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況や要望に応じ受診や外出などに付き添い支援をしている。 お弁当持参でピクニックなどもしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望にそって納得が得られたかかりつけ医の受診に努めるとともに、必要に応じ専門医の受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向け対応指針を書面で作成するとともに、家族の同意を得ている。 また、医師や看護師と相談し家族とともにチームとして支援に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録に名前を表示しなくても分かるよう工夫している。 その他の重要書類等は金庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「面倒くさい」ということも利用者の有する力を発揮してもらい、協力し合って楽しく生活ができるよう声掛けなどをして支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者が食べたい物を確認し、その材料を一緒に買いに行くとともに一緒に作ったり後片づけをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は職員の都合で決めるのではなく、利用者の希望やタイミングに合わせ楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験や生活歴を活かし、針仕事やレタリング、日曜大工、包丁とぎ、ガーデニングなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩や買い物などに出かけている。 また、コンサートや落語、展覧会にも積極的に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な暮らしを支え、心理的圧迫をもたらさないよう日中は鍵をかけない配慮をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間体制を想定し利用者と地域の方々、家族参加の避難訓練を行った。 災害時用リュックサックを玄関に備え付けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量や水分摂取量を記録し、利用者一人ひとりに注意を配っている 動いたらお茶飲みの声かけ、脱水の既往がある利用者や自から水分を取らない利用者には特に飲水するよう声かけをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花を飾り、共用の空間は家庭的な雰囲気を感じ、設備や物品、装飾にも気を配っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は馴染みの家具や仏壇等を持参している。 空気の入替えや外気温との調整にも気を配っている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。